

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ゆうゆう黒川

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100055		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	流通商事株式会社グループホームゆうゆう黒川		
所在地	〒020-0402 岩手県盛岡市黒川7地割37番地8		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成 23年 4月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100055&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成22年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人のペースや思いを大切にしています。できることやしたいことを事業所や介護者の都合により制限したり、物事を押し付けることなく、そっと見守りながら入居者さんの暮らしのお手伝いをしています。また、介護や生活支援の視点を持ち提案しながら、自分のことを決めて頂けるようなお手伝いを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、郊外の静かな住宅地にある二階建ての民家をベースとしている。そのため外観的な印象は周辺世帯と違和感なく溶け込んでいるほか、すぐ近くには公民館があり運営推進会議に活用されている。屋内は居間や台所が普通の住宅と同様の配置になっているほか、装飾も落ち着いた雰囲気でも元が民家であることを活かした居心地の良さを感じられる。「その人の生活を一番大切にしていきたい」という方針の下、起床、食事、入浴の時間を一人ひとりにあわせており、複数の利用者同士で暮らすなかでもあくまで個人の支援をしていくという姿勢は明確である。支援計画も生活上の個人の意向を第1に捉えており、利用者一人ひとりの個性がよくみえるものとなっている。地域とのかかわりは今後の課題もありながらも、開設以降着実に関係は深まっている。利用者の重度化に伴って個別的な対応をしていく職員体制に難しさも生じているが、「一人ひとりの利用者の願いに応えたい」という利用者本位の信念は揺らぐことなく、職員一丸となって今後も歩みを進めていくことが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ゆうゆう黒川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんの暮らしの支援を重要視しながら、地域の中で暮らすことも理念の中に掲げ日々取り組んでいる。	職員間に理念はしっかり共有され、又実践されている。更に理念を目的にしたこれからの実践テーマについても、検討を重ねているところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の暮らしの中で買い物や散歩に出かけ自然な形で地域生活を送っている。また、地域の祭りなどもお誘い頂き参加している。	町内会の回覧板や公民館との関わり、祭りへの参加など地域との交流をしている。又日常的にスーパーの買い物、散歩があり近所の人の声も増えている。今後は子ども達への介護体験学習などを考えてる。	地域の求心力となる子どもが訪れる場面を設定していくことで、利用者にとっての喜びはもとより、事業所を接点としながら地域の結びつきが高まることも考えられる。今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通じて認知症の理解やホームの取り組みを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況、苦情、事故などの報告・意見交換を行いながら意見や助言などあれば活かせるように努めている。	事業所の利用状況や事故発生の内容などを詳細に報告し、原因と対策についても検討されている。また地域との結びつきを深めていくために、より多様な話題をだしてもらえようような内容も検討していく予定である。	当事業所の理解促進と地域交流を進めていくアイデアを得ていくためにも、テーマを設け学校関係者や地域の消防団等のゲストをお呼びするのをも一考と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者も関わりながら入居している人もいることから、継続的な報告、相談、訪問を行いながら利用者を支えるために協力している。担当者の協力によりホームのサービスや取り組みも理解して頂く機会になっている。	担当者とは日頃から利用者の対応や、入浴の課題など相談し連携を深めている。身寄りのない方の入居支援では、市の福祉課や介護保険課、包括センターから細かな協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関のかぎは夜間のみ行っている。	玄関の施錠をはじめ、職員の身体拘束をしないケアの意識は高く、「本人の嫌がることはしない」ことを念頭に見守りのケアを心がけている。また利用者の外出時には近隣住民も気にかけてくれる関係性ができている。	利用者の行動を極力制限しないという考え方は、利用者尊重の明確な姿勢という点で意義が大きい。今後も利用者を第一に考える意識を継続していってもらいたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、関連法について学ぶ機会は入職時研修時のみ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学ぶ機会は設けていない。介護支援専門員は必須の研修で学んでいる。入居にあたり利用者や関係者と相談しながら制度を利用している人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書などにより、できる限りわかりやすく説明し質問を受けながら理解や納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問記入表にアンケートを設けている。また、随時、口頭でも受付している。内容に関しては地域運営推進会議でも報告している。	利用者の要望には日々敏感に耳を傾けるほか、家族からも意見を得る仕組みを整えている。アンケートでは家族が訪問した際の利用者本人の様子や印象等について記入してもらっているが、最近は記入されることが少なく、関わりが薄かったかもしれないとの認識がある。	家族との関わりについては、利用者の重度化に伴う対応時間の増加と職員体制が背景にあると考えており、それらの課題も含めて職員間で検討していくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや個別に話してもらい運営に反映させている。また、介護職員処遇改善交付金に伴うキャリアパスシステムの職員評価に併せ、運営に関する意見も集めている。	キャリアパスシステムでは職員個々の課題設定および職員評価とともに、職員の意見を取り入れながら運営に反映させている。重度化対応が増えてきたなかでは、職員同士で話し合いをする時間が少なくなってきており、課題としている。	理念や方向性は各職員に共有され、その実現方法が全職員の主体的な意識から検討されていくことで事業所としての実践力につながっていく。その点で職員間の検討場面は事業所にとってのエンジンのようなものであり、まずは話し合いをどのように持つべきかということから全職員が考えていってほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の生活に合わせながら働きやすい勤務になるよう任せている。処遇改善交付金に伴い基本給の上乗せ、評価により個々の課題を明らかにし向上心を持てるような取り組みと交付金の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会主催の研修に参加している。今年度は他のグループホームとの交換研修も行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協会岩手県支部の役員でもあり、研修会や他のホームとの交換研修も企画し行っている。また、飲み会なども企画し職員の交流の場を作る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問の際に話しを聞いている。また、入居されてからも行動や会話などからその方に安心して頂くための情報を共有し関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、思いや要望をお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	項目15・16を組み合わせ行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を作る時、買い物に行った時など利用者さんから教えて頂き日々を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問された際など気になったことや健康のことを相談しながら共に支えている。また、日々の暮らしに関連するような利用前のことや昔のことなどもお聞きしながら共にご本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域で暮らす密着サービスの意義を大切に考え、行きつけの店の利用、馴染みの知人と会うことができるような支援を心がけている。	なじみの美容院やスーパーへの買い物、又病院への通院途中、車で家の近くに行ったり、家族と一緒に食事に出かけるなど関係がとぎれないようにしている。外出時偶然会った知人がその後訪ねてくることもあり、関係性の支援が多彩になされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には自然な形で関係ができるように見守っている。会話が生まれたり、誘われたり、手伝ったりのよい関係が見られる。、トラブルや孤立感が強い状態になった方にはさりげなくお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や施設を訪問することがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、表情、動き、希望などから思いや希望を汲み取っている。生活の記録にも記入し共有しながら努めている。また、必要に応じて「私の願い(介護計画)」にも盛り込んでいる。	「お菓子を食いたい」「買い物に行きたい」「花が好き」といった日常場面での利用者の意向や気持ちを重視しており、援助方法を見定めるためにも、職員がまずは利用者を理解していくことが意識化されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後、ご本人や家族などからお伺いし、また、入居後も日々の会話などから知り得たことを記録しながら共有し活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の状況から気づいた事を記録し共有して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、申し送り、日誌などで意見を交換している。	「本人の願いは何か」の視点にたちセンター方式を取り入れて介護計画を立て、本人の生活意向反映させるようにしている。3ヶ月ごとに計画を見直す事で、利用者のよりよいケアを目指している。	「本人の願い」を第1に重視する計画内容は、職員の利用者本位の意識醸成にとって大きな効果をもたらしている。一方で他者との関係性から新たに生じるニーズの予測と支援についても今後職員間での検討が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の実施記入以外にその他の欄があり、気づきなどを記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容、訪問歯科、訪問看護、フットケアなどが希望により利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに参加し地域の人と一緒に楽しんだ。乙部中学の郷土芸能大会にもお誘い頂き楽しんでいる。町内の班にも入っており回覧も利用者が見たり自ら隣の家に届けることもある。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関を決めて頂いている。健康についての記録を共有しながら受診のお手伝いをしている。	健康についての記録を共有しながら、利用者が希望するかかりつけ医で、受診支援をしている。家族からの要望で、受診の付き添いは職員が代行し、医師より直接話を聞き家族にも伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し週1回の訪問時に相談や提案などを受けている。また、随時の電話相談や必要に応じての訪問ができる体制である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できる限りかかりつけの医療機関へ入院できるようにしている。また、ご本人の生活状況や性格などを伝え安心して療養できるようにしていると共に家族さんと一緒に出向き病状説明を聞いたり話し合いをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ話し合いを持ち方向性を決めている。	可能な範囲で対応していくことは契約時に説明している。どこまでできるかはその時の他の利用者状況にもよるが、推進会議で話題を提供し、事業所で今後どこまで対応していくかを探りながら、本人、家族と話し合いの上で支援していく予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成している。避難訓練に関しては今年度は2回避難訓練を行っている。また、地域運営推進会議でも取り上げ協力体制の相談もしているほか、災害時は隣の家の方にも協力を頂けるようになっている。	地域の協力や支援も得ながら、夜間の火災を想定した避難訓練をしており、そこから具体的な課題も把握されている。地域からの理解は徐々に深まっているが、運営推進会議の地域の参加や協力が課題である。	近隣の消防団の方に協力を得られないうかが検討中である。今後の成果に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならず、利用者の家におじゃましていて気持ちで言葉遣いなど気をつけ接している。個室に勝手に入ることなくお伺いしながらおじゃましている。	援助が必要なときも、まず本人の気持ちを大切に考え、声のトーンにも気をつけながら、伺いを立てるようにして対応している。共同生活ではあっても、あくまで個人の尊重が強く意識されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらで決めたことを提供するのではなく、希望をお伺いしたり、様々な選択肢の中から選んでもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで起き、食べ、片付け、休んだりしている。部屋で過ごしたい方はゆったりと部屋で過ごし自由な暮らしができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい物を着て頂いている。ご本人がタンスから選べない方はタンスから出し選んで頂いている。美容室、服や化粧品の買い物のお手伝いもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理をしたい人は希望に応じて一緒にしている。食べたい物をお伺いしたり買い物の際に好きな物を選んでもらったりしている。片付けはその方の希望で一人でされたり一緒にしたりしている。	食材の買い物、料理、食事の準備後片付けなどを希望者と一緒にしており、そのなかで役割を強制することはないようにしている。食事時間も本人の意向に添い、静かな落ち着いた雰囲気ですべてのペースで食事を楽しんでいる。	食事の時間がフリーで、利用者にとって拘束感がないのは大変嬉しいことと思われる。あとは限られた職員体制での対応方法については職員間で十分に協議を重ねていってほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食の量を共有している。その人に合わせた食器、お気に入りの茶碗なども取り入れている。また、飲食の量が少ないと思われる時でも強制的にせず、その人のペースや流れの中でお手伝いしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の流れの中で声をおかけしている。また、さりげない関わりや説明をしながらも歯磨きを希望されない人はさりげない関わりや説明をすることで決めて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人のペースに合わせお手伝いをしている。夜はリハビリパンツやオムツでも日中は普通の下着など状況に合わせている。トイレ？という様子を感じ声をおかけするなどの対応をしている。	日中はトイレでの排泄を基本として、排泄チェック表を参考に声かけ誘導をさりげなくしている。遠くからの見守りを継続しながら、日中の生活がリハビリパンツから下着になった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、希望される方にはヨーグルト・ヤルクト・牛乳を選んで飲んで頂いている。また、飲み物を自分で準備できない方にはのどが渇いていませんか？などの声をおかけし飲む工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	寝る前に入りたい方への準備もしている。午後は時間の希望があれば合わせている。温度を確認して頂き好きな時間入って頂いている。面倒という方には楽しい会話などし気持ちよく入って頂ける工夫をしている。	本人の意向に沿った入浴実施を基本としている。午後入浴としているが、希望により夜間入浴もある。お湯の温度ものぼせない程度に本人に合わせている。嫌がる人には無理強いせず、タイミングや日、言葉を変えて粘り強く声かけを継続している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は自由にして頂いている。寝ている時はこちらの都合で起きないようにしている。夜間は特に掛け物、室温に気をつけている。ベットか布団か希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をまとめ見やすいようにしている。内服はお手伝いしやすいような工夫をしている。症状の変化については健康の記録に記入し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中でできること、好きなことなど、その人に合わせきっかけを作ってみたり利用者へのお手伝いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的におやつや服など買い物などのお手伝いをしていてできるだけ希望の日時に行けるように努力している。また、普段行けないような場所にはご家族とも相談しながら行けるような努力をしている。	集団での外出は予定せず、個人の希望として要望が一致した人たち数人での外出が多い。お菓子や化粧品、服などを買いに出たり、春の花見やちゃぐちゃぐ馬こなどの行事へも出かけている。また全く個人としての要望にも可能な範囲で応えている。	孫の結婚式の参加や、「岩手町の日本一の藤の花をみたい」といった要望にも個別的に伝えており、まさに個人の願いを実現する支援として意義は大きい。頻度は多くなくても、願いをかなえるという姿勢は今後も継続を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が持ちたいとの希望がある方にはご家族とも相談の上お持ち頂いている。お金を持つことの大切さを踏まえ自己管理に関しての説明をしている。また、立替や事情に応じお小遣いの預かりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使って頂けるようにしている。自分ではかけるのが難しい方には番号を回したりのお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の戸に希望に応じ暖簾をつけたりしている。テレビの音量、室温にも配慮している。毎週、ご家族より玄関に花を飾って頂いたり、家庭的な雰囲気を壊さない程度に季節に合わせた飾りをする事ができる。	民家を改装した事業所のため、台所、居間に違和感のない家庭的な雰囲気が感じられる。玄関先はイスに座って外を眺めることができるほか、家族が持参した花も設置されている。室内の飾り物も多すぎずすっきりとして、居心地の良さを感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にもソファやイスを置いていて自由に使ったりくつろげるようにしている。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡、タンス、アルバム、テレビ、冷蔵庫などなど、その人の希望する物や馴染みの物をお持ち頂くようにお勧めし、その人の暮らしのお手伝いをしている。	居間には本人のなじみのタンス、テレビ、冷蔵庫などがあり、仏壇にご飯や水をあげたりもしている。当日見せていただいた部屋の壁には、孫の結婚式参加の写真も飾られ、幸せな思い出が感じられる場となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや便所の表示、段差にはわかりやすいようにテープを張るなど工夫している。また、廊下に目立つようにほうきを吊り上げたり、居間の外に物干しを置くなど見えることで動けるような環境を作っている。		